

未来を考え行動する若者たちの環境団体 次代の担い手が持続的な社会づくりを実践

◇ 野外音楽ライブでのごみ分別ナビ活動を機に誕生

札幌ススキノ近くの旧豊水小学校が市民活動スペースとなつて五年がたった。校舎三階フロアにはまちづくりなどの市民活動をおこなう一二団体が入居しているが、エレベーターを降りて正面に事務所を構えるのが「環境NGO ezorock」だ。

常勤有給スタッフ四名が勤務するが、併設された会議スペースは、ミーティングの時間になると、

学生を中心とした若者たちで活気づく。特に、二週間に一度の定例会議では白熱した議論が繰り広げられる。しかし、彼らの活動の場は野外ライブ会場であつたり畑であつたりもする。一見、楽しいなサークル活動のようでもあるが、地球の未来を考え、社会に対してメッセージを発信し続けている。

団体設立のきっかけになつたのは、音楽イベントでの環境対策活動だった。石狩市で毎年八月に開かれる北海道最大級の野外音楽ライブ「ライジングサン・ロックフェスティバル」では、約六万人の来場者が出す大量のごみを頭を悩ましていたが、二〇〇〇年夏、「国際青年環境NGO AS EED JAPAN」(本部・東京)がごみ分別ナビゲーションの活動を実施した。ごみ拾いをするのではなく、来場者自身が分別やりサイクルのために行動するよう普及啓発を行うプロジェクトだった。この環境対策活動にボランティアとして参加した北海道在住の若者たちが、「北海道のことは北海道の人の手で」と、ezorockを設立した。この活動は、現在では毎年約一六〇人の若者ボランティアが、来場者に対してごみの一三分別をよびかけている。さらには、大規模音楽イベントでの環境対策のノウハウを地域でも実践しようと、町内会や商店街のお祭りでも活動している。

ezorockのメンバーの平均年齢は二〇代だ。地球環境問題への様々な対策について、

他の社会問題同様、六〇代前後が意思決定の中心にいと考えると、地球温暖化など環境問題の深刻さが増す

数十年後には彼らはこの世を去り、今の二〇代こそがその状況下で生活を送ることになる。つまり、環境問題の影響をダイレクトに受ける現在の若者たち自身の声を社会にとどけることで、次世代を意識した社会づくりを目指そうというのがezorockのミッションである。若者自身が環境問題の解決に取り組み、行動することで、自身が成長するとともに、その意思を社会に伝えるためのプラットフォームということだ。

◇ 都市と農村をつなぐ活動に着手、成果も着々と

昨年からは、大樹町や平取町など農村部などへ都市部の若者を送り込む事業にも積極的だ。若者自身が環境問題の解決につながる地域課題に取り組み、その課題解決のプロセスを通して若者が学び育つ仕組みができてきた。また、地域のお祭りなどイベントで発生するごみの問題に限らず、



来場者へのごみ分別ナビゲートの活動

北海道の元気! NPO訪問

18 環境NGO ezorock

文・加藤知美



ライジングサン・ロックフェスティバルでの活動は、大所帯でのぞむ

体や自治体、企業などさまざまな課題について実施計画を提示したり、全くの新規で ezorock 側から提案を持ち込むこともあるが、環境対策費があらかじめ予算に組み込まれていない

農業、交通、メディアなどへも活動のフィールドを広げている。

ezorockでは、相談をうけると、若者ボランティアから問題解決のための意見やアイデアを募り、事業担当者であるスタッフとともにプロジェクトチームを結成し、課題解決に向けた活動を実施するという流れになる。若者らしいのは、アイデアを出し合う場が主にインターネットを使ったシステム上である点だ。独自のSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）の仕組みを持ち、あらかじめ登録している約六〇名が自由に意見をだす。環境に関連した課題を抱えて相談をもちこむ地域側の「依頼主」は、まちづくり活動団

ど、交渉に苦労することも多い。

活動の成果は目に見える形で出始めている。ライジングサン・ロックフェスティバルの会場内のポイ捨てが大幅に減少し、ペットボトルはキャップとラベルがはずされて捨てられるようになった。また、会場から排出される廃棄物のリサイクル率も七〇%まで上がった。そして、ごみの分別の成果を広く伝えるために、生ごみを堆肥化し、地元石狩のはるきちオーガニックファームと連携してその堆肥を使った有機栽培でスイカやジャガイモなどを育て、次の年の来場者に届ける取り組みをおこなっている。今年からは三方所の畑に活動を広げ、札幌市内の市民農園では若者が農園にかかわる人たちをつなげる接着剤となつて利用者のコミュニティづくりをすすめている。

◇ SNSで効率的組織運営、課題は拠点づくり

環境問題につながる地域課題の解決に向けたさまざまな事業を同時進行で走らせているが、その企画やコーディネートを中心に立つのが代表理事の草野竹史さんだ。大学で環境マネジメントを学び、環境調査などをおこなう会社に勤めていた一〇年前、ライジングサン・ロックフェスティバルでのASEED JAPANの環境対策活動に参加したことで「社会の変え方」に出合い衝撃を受けた。さらに、「環境活動で飯を食っている人がいる」というのも驚きだった。五年前から代表理事をつとめ、当初は他の仕事をかきもちで生活していたが、活動のビジョンを明確にし具体的な事業に結びつける努力を続け、今年になりようやく

手ごたえを得られるようになった。

今年度の事業収支は二〇〇万円を超え、前年度に比べ、大幅な増加を見込んでいる。自主事業収入の伸びによるものだ。

二〇〇名をこえる若者ボランティアにとつて、活動の最初から最後まで関わることでできるプロジェクトごとの取り組みは人材育成の場になっている。単に労力の提供をするのではなく、ミッションを共有し常に考えながら参加する仕組みだ。

この大所帯の組織運営を効率的にしているのは、SNSをはじめとするITを活用した情報共有やスケジュール管理だ。場所と時間の制約がないのがメリットだが、顔を合わせてのコミュニケーションやネットワークも大事にしたいとの思いから、今後は、若者が集まる拠点づくりにも力を注いでいこうと考えている。

※ 掲載写真はいずれも ezorock からご提供いただいたものです。



定例会議では対話を重視

◆ 環境NGO ezorock

所在地 札幌市中央区南8条西2丁目5
市民活動スペースアウクル305号
TEL 011-6151-4859
WEB <http://www.ezorock.org/>